

地方都市視察報告書

福祉健康委員会

1 実施日 令和7年11月7日(金)

2 視察地 福岡県福岡市

【市の概要】

(1) 面積 343.47km²

(2) 人口・世帯数

(令和7年10月1日現在)

○人口 1,670,636人

○世帯数 905,014世帯

(3) 福岡市は九州地方北部、博多湾に面した位置にある政令指定都市で、九州全体の政治・経済・文化の中枢を担っている。古代から大陸との交流拠点として栄え、現在も国際都市としての性格を強く持つ。市内には九州最大の幹線駅である博多駅、国内有数の取扱量を誇る博多港、都心から近距離に位置する福岡空港があり、陸・海・空の高い交通利便性が都市の発展を支えている。

商業面では、天神地区と博多地区を中心に大型商業施設やオフィスが集積し、多くの企業や観光客でにぎわう。一方で、海や山、河川など自然環境にも恵まれ、都市機能と自然が近接したコンパクトシティとして高く評価されている。

また、福岡市は若年層の人口割合が高く、スタートアップ支援やデジタル化、国際交流政策にも積極的に取り組んでいる。「住みやすい都市」「働きやすい都市」として国内外から注目され、今後も成長が期待される都市である。



3 視察項目・内容

介護スマートDXプロジェクトについて

4 視察参加者

【委員】

えのき 秀 隆委員長 佐藤 佳 一副委員長 杉山 直子委員

大門 さちえ委員 小野 裕次郎委員 のづけん委員

中村 しんいち委員 ひやま 真 一委員

【随 行】

議会事務局職員2名

5 視察結果・所感

福岡市の介護スマート DX プロジェクトは、ICT 機器や介護ロボット等を介護現場に導入することで、業務の効率化と介護職員の負担軽減を図り、将来的な人手不足の解消につなげようとする取組である。現在は主にペーパーレス化などのデジタル化が進められているが、移乗支援機器の導入により「腰の負担が軽減された」といった職員の声もあり、今後は人と人の関わりを支える形で DX がさらに発展していく可能性を感じた。

今後、要介護者人口の増加が見込まれる中で介護 DX の推進は不可欠である一方、介護職員の平均年齢が比較的高く、また機器が高額であることから導入が進みにくい現状も明らかとなった。福岡市では、まずリースにより実証的に機器を使用し、効果を確認したうえで、県の補助制度を活用して購入につなげる仕組みを設けており、導入のハードルを下げる工夫として評価できる。

一方で、導入が進んでいるのは主に大規模な特別養護老人ホームであり、訪問介護や通所系など小規模事業所では依然として導入が難しいとの課題も示された。令和 7 年度にはこれら小規模事業所を対象とした取組を進めているとのことで、その成果が期待される。

介護従事者の負担軽減に資するこれらの先進的取組は、新宿区においても十分に参考となるものであった。また、介護 DX の推進にあたっては、機器導入支援に加え、訪問介護職員の移動環境の確保や処遇改善など、現場の実情に即した支援を併せて進める必要性を強く感じた。

6 主な質疑項目

- (1) Wi-Fi 環境整備に係る補助金等について
- (2) 高齢者、家族の視点に立った安心感・利便性向上への評価について
- (3) 導入や運用に係る費用対効果、財政的な持続可能性について
- (4) 医療機関との連携について
- (5) 介護報酬改定に伴う「生産性向上推進体制加算」の創設と活用について
- (6) 事業者負担を伴う DX 導入に対する自治体の支援策と現場の評価について
- (7) スマホ等を活用した DX 推進について

7 その他

【共同視察者】

介護保険課長

